



## 県内陸上自衛隊が富士山の麓で広報活動



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一 等空佐）は、9月29日（日）、富士山樹空の森（御殿場市）主催で行われた「第7回自衛隊とのふれあいまつり」において広報活動を実施した。

今回は、県内に所在する全ての陸上自衛隊の駐屯地（富士・駒門・板妻・滝ヶ原）から各種車両やさまざまな職種（職種）の隊員が参加して、自衛隊の普段の訓練をはじめ防災訓練や災害派遣への取り組みを紹介し、幅広い世代に自衛隊の活動を伝えたい。

静岡地本は募集広報ブースを展開したほか、樹空の森に用途廃止となつて常設されているU・H・Jヘリコプターの機内見学を支援した。このヘリコプター展示は国内でも数少なく、機内見学を年に数回行っている。今年は来場者に搭乗員気分を味わってもらおうと、迷彩服を試着して乗り込む体験や自衛官から直接機内装備品の説明を受ける催しを行った。

一方、駒門駐屯地と板妻駐屯地からは、各駐屯地に整備するB7式偵察警戒車や高機動車などを展示し、迅速な機動展開能力を紹介。滝ヶ原駐屯地からは、厳しい野外訓練でも隊員の活力の源となっている自衛隊隊汁を、調理に熟達した隊員が来場者に振舞った。

また、会場にはこれまでの災害派遣活動に携わる隊員の様子を撮影したパネル写真を掲示。人命救助、物資輸送、給水・給食・入浴支援、道路啓閉、除染等、自衛隊の各種能力を活用した救援活動の紹介に、多くの親子連れが足を止めていた。

さらに、富士駐屯地の音楽演奏や板妻駐屯地の太鼓演奏、各部隊のマスコットキャラクターである「たきすけ」「イタツマン」「しずぼん」らが勢揃いしての写真撮影会など、4つの駐屯地が一室に会しての多面的な活動紹介は、終日来場者を飽きさせなかった。

来場した小学生は「自衛隊にはいろいろな仕事があることを知った」「操縦席に座ったりバイクにまたがったり、とても楽しかった。また来たい」と、笑顔で教えてくれた。

静岡地本は今後も、県内各部隊と協力し、警戒監視や災害派遣をはじめ精力的に活動する隊員の紹介に邁進していく。

## 沼津市立第三中学校で中部航空音楽隊が演奏会



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一 等空佐）は10月2日（水）、沼津市立第三中学校において行われた航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松市）の演奏会を支援した。

これは、音楽に造詣が深い同校の鈴木珠美校長から依頼があり実現したもの。午前中から気温が30度を超える季節外れの蒸し暑さの中、中部航空音楽隊の精鋭36人が楽器や器材を携えて、音楽隊専用車両で学校に到着。静岡地本マスコットキャラクター「しずぼん」も同行した。

演奏準備も整った隊員たちは、演奏前のリハーサルを使って、まずは同校吹奏楽部員36人に演奏の手ほどきを実施した。隊員は国立や有名私立の音楽大出身者も多く、その演奏技術レベルは高い。隊員と同じ楽器を担当している生徒たちに長年培った演奏のコツや練習方法などプロの技を伝授した。そして午後の演奏会本番。体育館に集まった生徒やその家族など総勢600人を前に「マーキュリー」という曲からプログラムスタート。楽器紹介や希望者に指揮を体験してもらった。サプライズ演奏も行った。「メリゴーランド」という曲を指揮した男子生徒は「指揮をやったことはあったけれど、プロの演奏者を前にとても緊張しました」と喜んでくれた様子だった。

また、後半では吹奏楽部員も演奏に参加。現在練習している「アラジン」の曲を合同演奏して、集まった生徒や家族を美しい音色で魅了し、終始笑顔にしていた。

音楽隊はこの日7曲のプログラムを披露し、時には生徒や来場者と一体となつて、音楽の魅力と音楽の持つ力を伝えた。静岡地本は、引き続き音楽隊の支援を得て、広報演奏を通じた自衛隊の魅力を広め、音楽職種をはじめ将来の職業としての自衛隊をPRしていく。

## 静岡県防衛協会の新会員が駒門駐屯地で自衛隊を体感



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一 等空佐）は、9月18日（水）、陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）で行われた静岡県防衛協会中・西部支部の部隊研修を支援した。本協会は、防衛意識の高揚を図り、防衛基盤の育成強化に寄与するとともに、自衛隊の活動を支援・協力することを目的として活動する民間の組織。趣旨に賛同する会員により支えられ、現在県内の会員数は426人を誇っている。

会員は多忙な本業の合間を縫って精力的に活動しており、今回の研修も、現在、少子高齢化・高学歴化・好景気の中で隊員の募集が非常に困難な状況を憂え、少しでも支援できることはないかという意識から、まずは現場で勤務する隊員を实地に見て、今後の募集支援の質と量のため実施された。

研修は、戦車の運用に携わる隊員教育を支援する機甲教導連隊から始まり、隊員から連隊の概要や訓練状況の説明を受けた後、74式戦車に実際に体験試乗した。試乗前に隊員から安全教育を受けた会員からは「日頃から安全に十分配慮していることがうかがえた。部外者に対する気配りも自然だった」との声が聞かれた。

そして車長の号令で大きなエンジン音を響かせて戦車が発進。隊員たちの連携を間近で見えた会員は「隊員間の連携が非常にスムーズかつ厳格で、常に安全第一を心がけていることが分かった。戦車は細部まで磨き上げられ、しっかりと整備されていることが一目で分かり、装備品を大切に使用する物品愛護の精神が感じられた」と話していた。

その後は90式・100式戦車や最新鋭の16式機動戦闘車などを見学し、性能の違いなどについて説明を受けた。会員からは「一戦車はどこまで軽量化が進んでいくのか」「今後はどのような部隊が編成されるのか」といった具体的な質問があり、会員の安全保障への理解や自衛隊の活動に対する関心の高さがうかがわれた。

一方、静岡地本富士地域支援センター長・岡村伸一 3等陸佐から、定年退職者や任期満了退職者の再就職支援についても説明。隊員の希望と企業の要望とのマッチングが非常に大切であること、昨年度の実績や今年度以降の展望を紹介し、退職自衛官の雇用促進への支援を依頼した。

静岡地本は、今後も協力団体との連携を密にし、部隊研修支援などを通じて自衛隊の活動に対する理解向上に努めていく。